

# いわいの大地

農家と農業委員をつなぐ広報誌

骨寺から須川を望む

## 新しい農業委員会がスタート

**農業委員24名に辞令が交付  
農地利用最適化推進委員36名に  
委嘱状が交付された**

平成30年9月20日、一関市長から新たに任命する24人の農業委員に辞令が交付され、新しい農業委員会がスタートしました。第1回農業委員会総会では、会長に伊藤公夫委員、会長職務代理者に渋谷皓委員を選出。また、農地専門委員会委員長に佐藤繁委員、同副委員長に佐々木栄一委員が、農政専門委員会委員長に石川誠司委員、同副委員長には佐藤均委員が選出されました。

同日は第1回農地利用最適化推進委員会議も開催され、新設された農地利用最適化推進委員36人に委嘱状が交付され、委員長に菅原吉昭委員、副委員長には伊藤勉委員が選ばれました。

今後3年間、計60人の委員が農家の皆様のために活動します。委員の名簿と担当地区、連絡先は2ページに掲載していますので、ご覧ください。



農業委員に辞令が交付



農地利用最適化推進委員に委嘱状が交付

### 就任のご挨拶

一関市農業委員会  
会長 伊藤 公夫

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

皆様方には健やかな新年をお迎えのことと存じます。

本年も農業委員会の活動に對しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

任期満了と農業委員会法の改正により、平成30年9月20日より新しい農業委員会がスタートしました。同日、市長より農業委員24人に辞令が交付され、続いて開催の第1回総会において、私が会長に就任することとなりました。3期目の重責であります。引き続き公正・公平な運営に努めて参りますので、よろしく願います。

また現場活動を強化するため、農地利用最適化推進委員の制度が新設され、推進委員36人に農業委員会から委嘱状を交付しました。担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など、農地利用の最適化業務に

取り組む体制が整備されたことから、農地を守り、地域農業を継続発展させていく活動に農業委員会は一丸となって寄与して参ります。

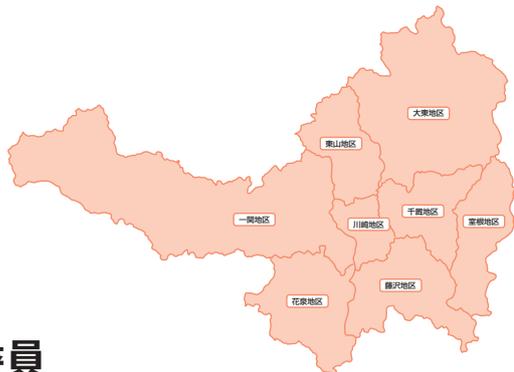
さて、農業の現状については、担い手の高齢化や後継者不足等課題ばかりが強調されがちですが、一関市は県内一の農業産出地です。農業委員会だより第37号でも取り上げましたが、農林水産省がまとめた平成28年市町村別農業産出額の推計結果によると、一関市の総産出額は300億円で、県内では第1位、東北では第4位、全国では第30位となっています。総産出額の約7割は畜産が占めていますが、米や野菜なども産地を形成し販売促進に努めています。上位部門は市場での高評価を背景に、若い後継者や新規参入の就農者も育ってきており、基盤整備や法人化など生産システムの合理化の進展と併せて、益々成長が期待されます。

新たな体制のもと今後も農業委員会は、農業・農村の声を代表する組織として様々な農業の問題に総力を挙げて取り組んで参りますので、皆様方のご支援をよろしく願います。



# あなたの地区の担当委員

農地の貸借、転用、農業者年金等については  
地区担当委員へご相談ください。



## ■農業委員

担当地区		氏名	電話番号
一関	一関、中里、三関	永嶋 幸一	23-7278
	山目、赤荻	齋藤 憲子	23-5924
	狐禅寺、真柴、滝沢	松岡千賀子	21-2643
	巖美、萩荘	三浦 善昭	29-2048
	狐禅寺、舞川	佐藤 圭一	28-2584
	真柴、滝沢、弥栄	佐藤 徹	43-3784
花泉	永井	皆川 清喜	84-2927
	涌津、油島	佐藤多賀幸	82-4861
	老松、日形	渋谷 皓	82-1167
	花泉、金沢	佐藤 均	82-1417
大東	大原	鈴木 勝	72-2201
	興田	小山 悦郎	74-2323
	猿沢、渋民	石川 誠司	75-4380
	摺沢、曾慶	畠山 潔	75-4003
千厩	千厩、奥玉	佐藤 繁	52-4736
	小梨、磐清水、清田	千田 幹雄	52-3391
東山	長坂、田河津、松川	鈴木 初男	47-3415
	長坂、田河津、松川	伊藤 公夫	48-2442
室根	折壁(5~10区)、矢越	千葉 綾雄	64-3547
	折壁(1~4区)、津谷川	芳賀 武郎	65-2041
川崎	薄衣、門崎	遠藤 勝幸	43-2567
藤沢	大籠、藤沢	畠山 信吾	63-2667
	黄海、西口	佐々木栄一	63-4048
	増沢、砂子田、徳田、新沼、保呂羽	佐藤和威治	48-3178

## ■農地利用最適化推進委員

担当地区	氏名	電話番号	
一関	山目、赤荻	阿部 正明	25-3676
	中里	遠藤 清春	25-5843
	一関、三関、狐禅寺	木村 修一	21-3697
	一関、三関、真柴、滝沢	菅原 吉昭	21-3775
	巖美	佐々木守美	39-2461
	萩荘	阿部 栄男	24-3579
	舞川	渡邊 克洋	31-7122
	弥栄	佐々木 和	43-3553
花泉	永井	千葉 寿昭	84-2857
	涌津	及川 善喜	82-3254
	花泉	佐藤 文一	82-3535
	老松	千葉 貞宜	82-1953
	日形	小野寺安春	82-4413
	金沢	千葉 浩昭	82-1424
	油島	佐藤 松雄	82-5805
大東	大原	小野寺 進	77-2203
	摺沢	佐藤 正夫	75-2339
	興田	武田 文一	74-2234
	猿沢、渋民	小野寺照夫	76-2254
千厩	曾慶	菅原 豊一	75-3725
	小梨	遠藤 真一	52-3625
	千厩、清田	千葉 太郎	52-3884
	奥玉	小野寺 彰	56-2018
東山	磐清水	渡邊 晃	52-4856
	長坂	千葉久壽郎	47-3583
	田河津	渡辺 弘至	47-2691
	松川	菅原 清一	48-2005
室根	折壁	熊谷 勝徳	64-2916
	矢越	岩渕 正昭	64-3377
	津谷川	菅原 隆儀	65-2320
川崎	薄衣	高橋 栄男	43-3327
	門崎	小野寺 修	43-2493
藤沢	黄海	伊藤 勉	63-3708
	大籠、保呂羽	畠山 誠志	62-2118
	藤沢、西口	菅原 良博	63-4413
	増沢、砂子田、徳田、新沼	佐藤 泰雄	63-3502



# 一関市農業委員会

# 農地利用最適化推進部門で表彰

平成30年度  
岩手県農業委員会大会が  
開催される



平成30年11月8日、盛岡市都南文化会館で開催された平成30年度岩手県農業委員会大会に農業委員、農地利用最適化推進委員20人が参加しました。

農業委員会等活動表彰では、当委員会は積極的な現地活動が評価され、農地利用最適化推進活動部門において表彰を受けました。

大会では、「農地利用最適化推進活動の充実強化に関する決議」「農業施策の充実に関する要請決議」「農業委員会の体制及び活動の充実強化に関する申し合わせ決議」の議案を決議し、大会宣言を採択しました。

大会に引き続き活動事例研修が行われ、岩手町・紫波町・軽米町の各農業委員会の事例発表により県内の活動状況を学び、全国農業委員会ネットワーク機構（一社）全国農業会議所の話からは全国的な情勢や先進事例についての認識を深めました。

## 委員会の目標と推進方法を決定

農業委員会ではこの度「一関市農業委員会農地等の利用の最適化の推進に関する指針」を決定しました。この指針は平成37年度を目標準年度として、遊休農地の発生防止・解消、担い手への農地利用集積、新規参入の促進の3項目について、具体的な数値目標と推進方法を定めています。

遊休農地については約670haの解消、担い手への利用集積は約6,400haの増加、新規参入は11人及び22法人などを目標としており、今後、農業委員会はこの目標に向けて活動を行います。

「一関市農業委員会農地等の利用の最適化の推進に関する指針」は、一関市の公式ホームページに掲載されています。

## 経営移譲年金 特例付加年金

### を受給している方へ

経営移譲年金・特例付加年金は、後継者等に経営移譲することで、**農業経営を引退した方が受給する年金**です。受給者本人に農業収入があると、農業経営を再開したとみなされ、年金が支給停止となる可能性がありますので、ご注意ください。（受給者本人の農業共済への加入、経営所得安定対策等交付金の申請も同様です。）

農業委員会では、一関市のホームページで委員会に関する情報を提供しています。毎月の総会日程や議事録、農作業標準賃金、届出や手続きの案内などを掲載していますのでご覧ください。

<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>  
一関市のトップページから「産業振興」タブをクリックし、農業委員会ページへお進みください。

## より地域に密着した活動を



一関市農地利用最適化推進委員会  
委員長 菅原吉昭

昨年9月、改正農業委員会法に基づき新体制に移行し農地利用最適化推進委員に委嘱され、その委員長になりました菅原吉昭です。

前3年間は農業委員として活動し、総会での農地に関するさまざまな申請の許可や、遊休農地・耕作放棄地発生防止のための農地パトロールなどを通していろいろな勉強をさせていただきました。

農地利用最適化推進委員は、各担当地域において地域の農業について農業者等の話し合いを進め、農地の集積・集約の手伝いをしたり、遊休農地や耕作放棄地の発生防止・解消に向け活動するなど、より地域に密着した活動を行うこととなります。

現状では、農業従事者の高齢化や担い手不足など問題が多くありますが、農業委員と協力して活動を進めていきますので、地域の皆様のご協力をお願いします。

## 全国農業新聞の購読を!



農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、農業委員会または各支所産業経済課まで

購読料

月額 700円

# 農地等有効活用 調査を行います

農地の利用意向をお聞かせください

農業委員会では、農地台帳の精度向上を図り、農地の利用集積を進めるとともに遊休農地の発生を防止することを目的とし、農地の所有者の方から今後の利用意向を伺う「農地等有効活用調査」を行っています。

今年度の調査対象は一関地域（舞川、弥栄地区を除く）と川崎地域です。2月ごろをめどに地区の農林連絡員が調査票の配付・回収を行いますので、記入・提出をお願いいたします。調査は農地1筆ごとに現在の状況や5年後、10年後の「自分で管理する・貸したい・売りたい」などの意向を記入していただきます。回答いただいた情報は今後の農業委員会活動の基礎資料となり、担い手への農地集積や農地パトロールなどに役立てられます。

そのほかの地域についても今後数年に分けて調査を行う予定とさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



## 農地賃借料情報

平成29年1月から同年12月までに締結（公告）された賃借料における賃借料水準（10a当たり）は、右のとおりとなっています。

### ① 田（水稻）の部（10a 当たり）

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	6,888 円	11,000 円	2,526 円	1,136
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	8,519 円	12,544 円	2,581 円	811

### ② 畑の部（10a 当たり）

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	4,547 円	8,000 円	2,000 円	57
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	3,423 円	7,000 円	1,400 円	84

#### 備考

- 地域ごとに契約額が極端に高額、低額（平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの）な実例をあらかじめ削除し全体集計しています。
- 賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めていません。
- 対象農地の収穫見込み量や形状、隣接する道水路等の状況を考慮し両者で協議の上決定してください。

### 編集後記



新年明けましておめでとうございます。農家の皆様には日頃より「いわいの大地」をご愛読いただき、また取材の際は快くご協力いただきまして、ありがとうございます。

30年前「平成」は希望に満ちた新しい時代の幕開けでした。しかし近年は暗い話題も多く、異常気象により各地で豪雨や台風などの自然災害にみまわれ、農家や農作物にも甚大な被害が発生しております。

今年5月、平成から新しい元号に改められる予定です。来年2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

これから数年間のうちに、日本の歴史に新たなページが刻まれる大きな出来事が予定されており、日本経済が、そして日本の農業がどのように変わっていくかが楽しみです。

この度の改選に当たり「いわいの大地」の編集は農業委員、農地利用最適化推進委員から各地域8名の新たな委員で担って参ります。

農業委員会の活動や地域で活躍している人の紹介、制度情報等の提供に努めて参りますので、農業者皆様の身近な情報誌として引き続きご愛読をお願い致します。新しい年が災害のない穏やかな豊作の年であることを願いたいものです。

編集委員長 佐藤 圭一

### いわいの大地編集委員紹介

編集委員長 佐藤 圭一（一関）  
副委員長 千葉 太郎（千厩）  
編集委員 佐藤多賀幸（花泉）  
畠山 潔（大東）  
菅原 清一（東山）  
芳賀 武郎（室根）  
遠藤 勝幸（川崎）  
菅原 良博（藤沢）

